



イラスト 吉田 真彩

わたしは、すごいなと思ったら、あれは、ダンボールでできています。いろいろのダンボールは、なんのダンボールかなと思いました。ほかにも、小鳥は赤色とか、コカ・コーラのダンボールとか、《晩秋の鹿》は、細かくダンボールがくるくるなって、すごいとも思いました。ほかは、アンモナイトや貝とかも石みたいになりました。とくにアンモナイトが顔よりも大きかったです。かめのダンボールもあって、それを作った吉田さんも、のってもつぶれないと言っていました。わたしは、ダンボールも化石も、ほかのもの楽しめたりしながら、見て楽しかったです。（小川咲良子）



イラスト 小川 咲良子

これがいろいろながいっぱいだった。モリノコいっぱいあってたのしい。《曙、黄昏、青い島》はいとでしろいものがむらさきになったやまのえがあります。きれいだった。かめのさくひんは、ほねぐみからできていて、なかがくうどうになっているそうです。



イラスト 田野 紗彩

森迫暁夫《モリノコ》

大きな布にびっしりかかれている。動物、人間、植物などが書いてある。よく見ると水を飲んでいる人や、小さなくまがいで、かわいらしい。自分の部屋のかべがみをこの作品にしたら、ずっとながめていられそう。

イラスト 田野 紗彩

《屏風の虎》は、ダンボールで作られた屏風から、鋭い目の虎が乗り出していて、とても迫力がある。毛並みやもようなどもとても細かく作られていて、すごいと思う。屏風に描かれている竹や草、木が色々な方向にのびていて、本物の森に見える。（引地優萌）

いろいろ どうぶつ 色々な動物をダンボールで作ってすごいと思いました。他にも、ブルーライトでてらして物が光っておもしろかったのでまた次の作品も楽しみです。（吉田真彩）



イラスト 大橋 尊人 イラスト 田野 茜絆

もりさこあきあ 森迫暁夫さんのかみちまを作る時の焼く時に10%ちぢむ。光熱費にお金がかかるから、作品を作るのは大変なんだなと思いました。藤沢レオさんの不在の森の糸の色をけい光ピンクにしたのは、血管みたいに見て、元気な色だと思ったから、という話を聞いて、元気になる色まで考えているんだなと思いました。（小原幸悠）

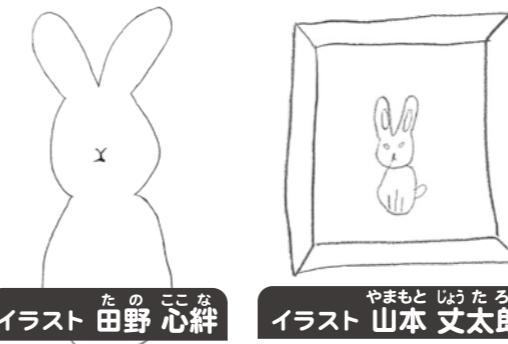


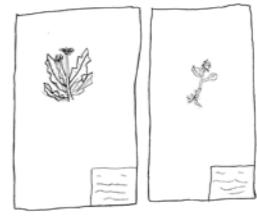
イラスト 田野 心絆 イラスト 山本 丈太郎

吉田傑《エゾユキウサギ》額ぶちまでダンボールになっている。少し白くなっているところがエゾユキウサギだ。「ホフン」と浮き上がっているように見えて、ユキウサギのやわらかそうな感じが良く表されている。この作品は、ウサギの形をくりぬいたダンボールをはって、2カ月ぐらい日に当てて作ったそうだ。この作り方を知って、おどろいた。

《エゾユキウサギ》という作品は、額ぶちまでダンボールで作っていて、その中にはウサギが描かれて(?)いました。でもじっさいには描いていないそうで、どうやって作品を作ったかというと、ウサギの型のダンボールを2カ月間まどのそばにおいて日やけさせて作ったそうです。（山本丈太郎）

タンポポの標本作りを体験

6月2日の活動は、学芸員のお仕事体験！美術博物館で保存するためのタンポポの標本を作りました。完成した標本は、12月からの企画展で展示する予定です！



まず、出光カルチャーパークにタンポポをとりに行った。根がついたままの形でとるのが意外と難しかった。次に、とったタンポポの根を水で洗い、土を落としてから、葉を一枚は表、それ以外は裏にすることに気を付けながら新聞紙にはさみ、ラベルを書いた。標本をはさんだ新聞を、さらに吸湿用の新聞紙ではさみ、早く乾燥させられるようにした。（野本遙）

たんぽぽをみつけて、ひょうほんにしました。たんぽぽじゃないのもつくりました。ねっこがやわらかかった。（福田光樹）



イラスト 吉田 真彩

標本の作り方が分かった。いろいろな花を標本にして、図かんを作成してみました。花のうらや葉のうら、根が大事なことが意外だった。（小原幸悠）

タンポポのひょう本を作りました。葉をひょう本にするとき大へんででした。葉は一まいだけおもてにして、そのほかはうらです。うらはちがいなどがでやすいからだそうです。（岡本到）